

登別市中央地区まちづくり協議会 第2回ワーキンググループ 議事録

開催概要

日 時 令和5年1月31日（火） 18:00～19:00
場 所 登別中央ショッピングセンターアーニス 2階 あえるSTATION
出席者 ワーキンググループ委員 別紙のとおり
事務局・オブザーバー 別紙のとおり
その他参加者
登別市中央地区まちづくり協議会 斎藤会長、西尾副会長

議事内容

1 開会

事務局（総務部本庁舎整備推進グループ）が進行

2 新任ワーキンググループ委員の紹介

【会長推薦】

①興和工業株式会社	鈴木雄登氏
②株式会社望月製麺所	望月啓一郎氏
③株式会社ビケンワーク	小和田奈々氏

【登別室蘭青年会議所】 相沢拓也氏（欠席）

3 コンセプトづくりに向けた協議

事務局より、前回WGの振り返りと今回の協議事項を別紙資料により説明。

【参加した委員からの主な発言】

- ・ 「世界一」など、キーワードに限らず意見を出したほうがいいのではないかと。
- ・ 「世界初」でもいいのではないかと。
- ・ 飲食店も多くある。みんなが来て楽しい場所になるといい。
- ・ 市内にないコーヒーショップがあると嬉しい。
- ・ 室蘭市にある「きらん」のようなものがほしいという声があった。
- ・ 「たまり場」となるような場所ができるといい。
- ・ 室蘭市に大型店舗ができると、登別の人たちは室蘭に流れてしまうと思う。そのことを考慮して考えていったほうがいい。
- ・ 何かを呼ぶことだけを考えるのではなく、自分たちで作り出すことも考えて行かないといけない。
- ・ 自分は市外出身だが、登別市の人みんな協力的。人と人のつながりが強い。

- ・ 過去の栄光を引きずっている。過去の栄光は捨てて考えたほうがいい。
- ・ 商業地としてではなく、住宅街や高齢者が集うような街など、全く新しいまちになることも考えていいと思う。
- ・ 私も市外出身だが、登別に住んでみて本屋が少ないと感じたし、生徒たちも文房具を購入するお店がないという声も聞く。
- ・ 市内にIT系の就職先はなく、市外に就職する学生が多いので、このまちに戻りたいと思えるようにしたい。
- ・ 地元に着着を持ってもらうことが必要なのかもしれない。
- ・ この地区には「期待感」がある。
- ・ 幌別駅周辺には、昔、旅館やホテルがあったが、なくなってしまって残念。
- ・ 中央地区には宿泊施設が必要ではないか。
- ・ 中央地区にはさまざまな歴史がある。
- ・ 日常と違う時間を過ごすことができ、自分の気持ちをリセットできる、そこに行けばテンションが上がるような特別感のある場所がいいのではないか。
- ・ 図書館など、文化的な施設が充実していると嬉しい。
- ・ 登別は雨が多いまちなので、跡地には室内で活動などができる文化ホールのような施設がいいのではないか。
- ・ まちづくりを考えると、まちを人が歩くことが重要だと思った。
- ・ 日中の人が多くなるためには、まちなかを歩く子ども（小学生～高校生）が多くなる必要があると思う。
- ・ ワーキンググループでは、将来のまちづくりの方向性として、ハード事業だけを協議するのではなく、施設整備に向けた機運を醸成するといった観点からのソフト事業についても委員の皆さんと話し合っていきたい。

4 その他

(事務局より説明)

- (1) 今後、学生委員会にも同様の説明を行い、いただいた意見をWGにフィードバックしたいと考えている。
- (2) 次回のWGは2月中に開催する予定。

5 閉会

19時00分 閉会

以上